

2023年3月7日
株式会社日本政策金融公庫

消費者が希望する生産者等の情報入手方法 20～30代はSNSに期待

< 消費者動向調査（令和5年1月調査）特別調査：農村や農業生産者との関わりについて >

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）農林水産事業は、全国20～70代の男女2,000人を対象に「消費者動向調査（令和5年1月調査）」を実施し、特別調査として、農村や農業生産者との関わりについての調査結果を紹介します。

調査結果のポイントは以下のとおりです。

○農産物の産地に“関心がある”は約7割、生産者に“関心がある”は約5割

普段食べている農産物の産地に「とても関心がある」（22.3%）、「やや関心がある」（49.7%）を合わせた“関心がある”とする回答は72.0%となった。年代別では、「とても関心がある」の割合は、年代が高くなるほど割合が高い傾向となった。

生産者に“関心がある”とする回答は47.4%となった。年代別では、「とても関心がある」の割合は、30～40代、70代で1割を上回り、他の年代と比べて高い割合となった。

○農産物について”関心がある”情報 「食味」が最多

農産物に関する情報のうち、「とても関心がある」、「やや関心がある」を合わせた“関心がある”とする回答は、「食味」（78.0%）が最も高く、次いで「保存方法」（72.7%）、「食べ方・調理法」（71.5%）の順となった。

○今後希望する情報入手方法 20～30代は「生産者が発信するSNS」が高い傾向

生産者・生産物に関する情報の現在の入手方法は、「店舗・飲食店での表示」（49.4%）が最も高く、次いで「テレビ、新聞、雑誌」（41.6%）、「生産者の商品を提供する店舗（ネットサイトを含む）・飲食店のホームページ」（22.2%）の順となった。

今後希望する入手方法は、「生産者が運営するホームページ」（28.6%）、「製品包装や店頭表示のコードを読み取る」（21.2%）が、現在の入手方法と比較して5ポイント以上高くなった。年代別では、「生産者が発信するSNS」は、20代で3割、30代で2割を上回り、他の年代と比べて高い割合となった。

○今後の農村・農業生産者との関わり 農家民宿等での宿泊がポイント上昇

農村や農業生産者との関わりがある行動・取組みのうち、今後やってみたいこととして、「農家民宿、ファームインでの宿泊」などが「経験有り」の割合を上回った（6.4%、「経験有り」比+3.3ポイント）。

なお、今後、やってみたいことは、「産地や生産者の直売所で農産物を購入」（39.0%）が最も高く、次いで「観光農園・体験農園での収穫体験」（13.4%）、「農村地域へのふるさと納税」（11.9%）の順となった。

■詳細は、添付のレポートをご参照ください。

消費者動向調査（令和5年1月）

～農村や農業生産者との関わりについて～

～目次～

I. 普段食べている農産物の産地・生産者への関心	P 3 ～ 4
II. 農産物について関心のある情報	P 5
III. 生産者・生産物に関する情報の入手方法	P 6 ～ 7
IV. 農村や農業生産者との関わりがある行動・取組みの経験、今後の取組み意向	P 8 ～ 9

○調査概要

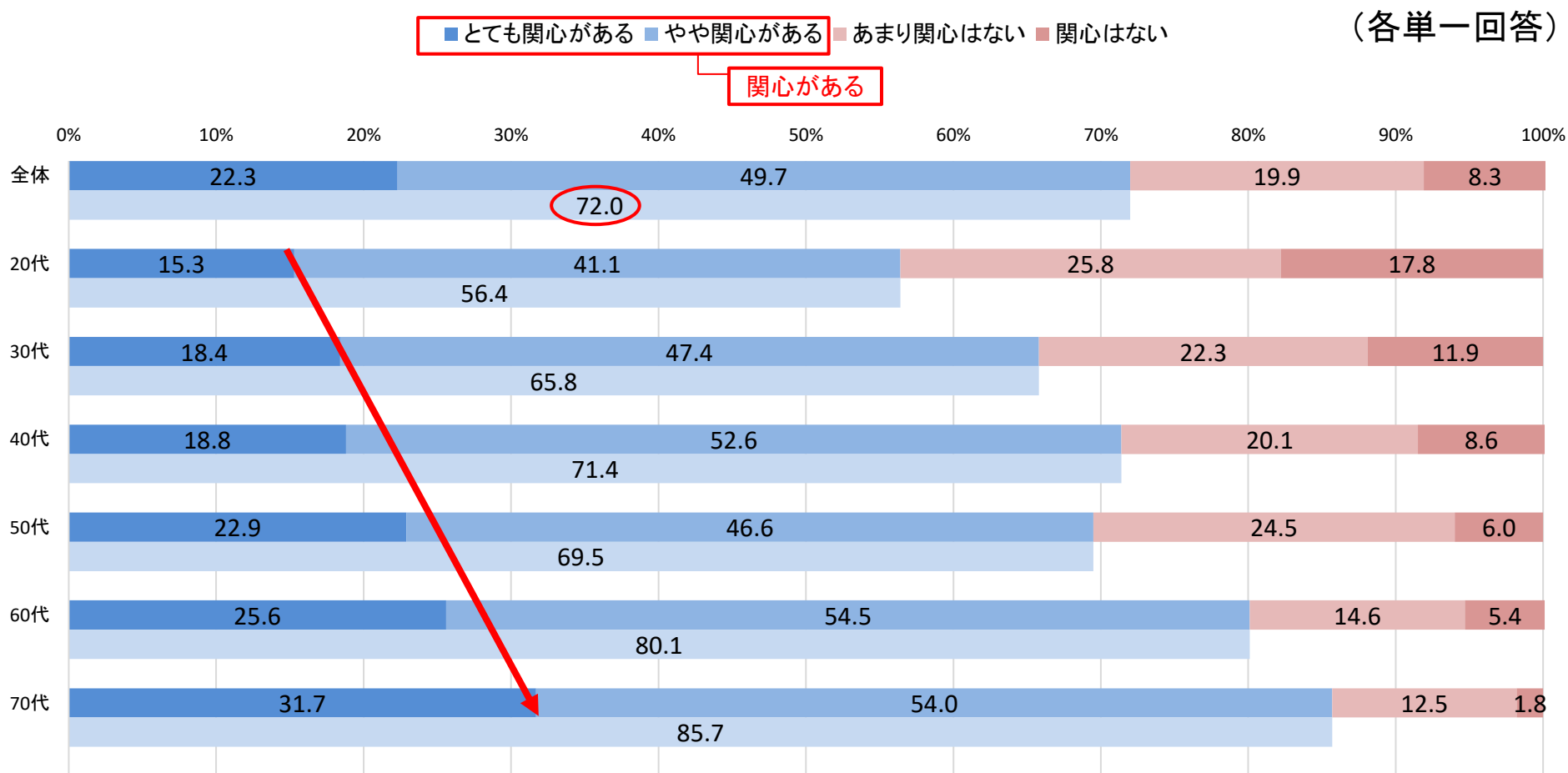
- 調査時期: 令和5年1月
- 調査方法: インターネット調査
- 調査対象: 全国の20歳代～70歳代の男女2,000人(男女各1,000人)
※インターネット調査であるため、回答者はインターネット利用者に限られる。

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 農林水産事業本部 情報企画部(担当: 赤羽根、米山) TEL: 03-3270-5585
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

I. 普段食べている農産物の産地・生産者への関心(産地)

- ・普段食べている農産物の産地に「とても関心がある」(22.3%)、「やや関心がある」(49.7%)を合わせた“関心がある”とする回答は72.0%となった。
- ・年代別では、「とても関心がある」は、年代が高くなるほど割合が高い傾向となった。

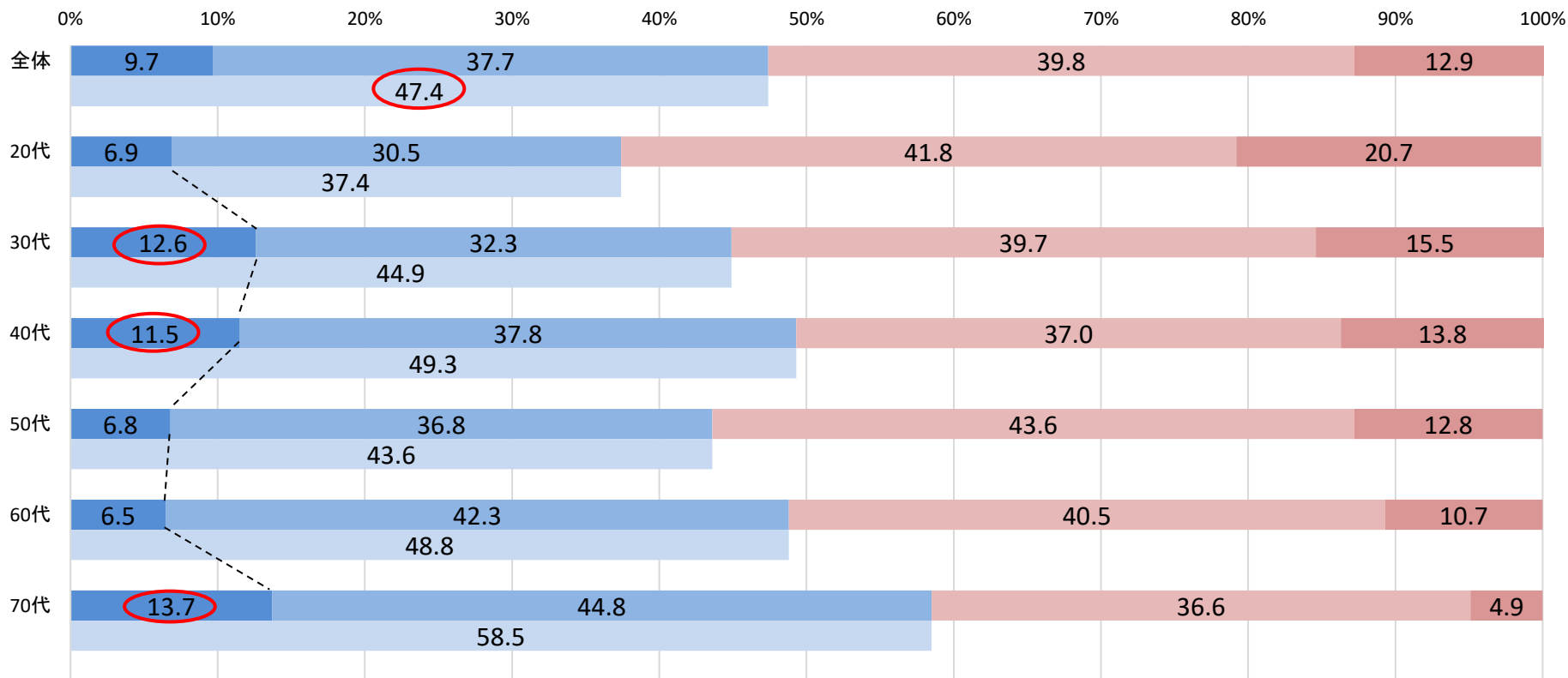


I. 普段食べている農産物の産地・生産者への関心(生産者)

- ・生産者に“関心がある”とする回答は47.4%となった。
- ・年代別では、「とても関心がある」は、30～40代、70代で1割を上回り、他の年代と比べて高い割合となった。

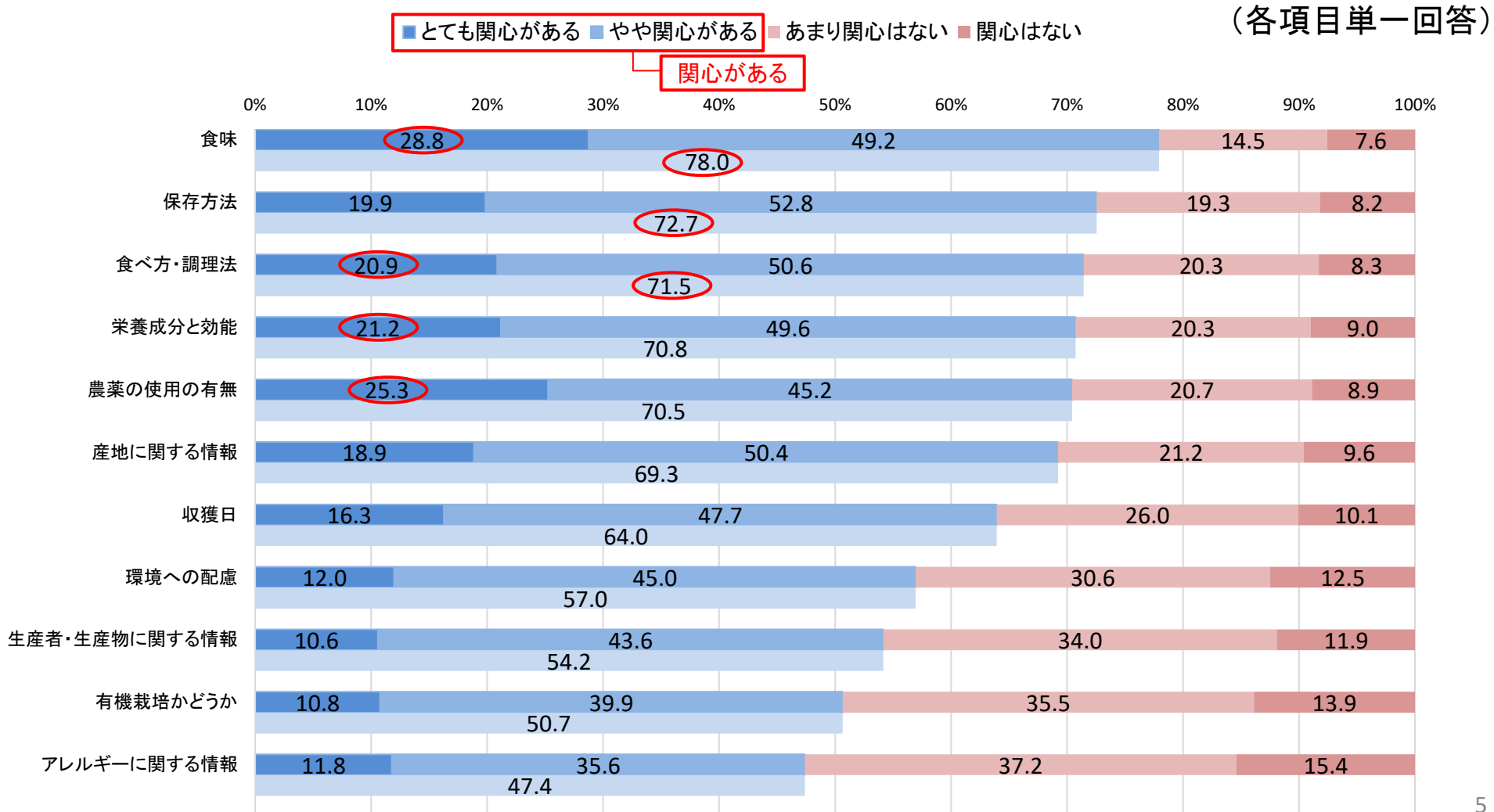
■ とても関心がある ■ やや関心がある ■ あまり関心はない ■ 関心はない (各単一回答)

関心がある



Ⅱ. 農産物について関心のある情報

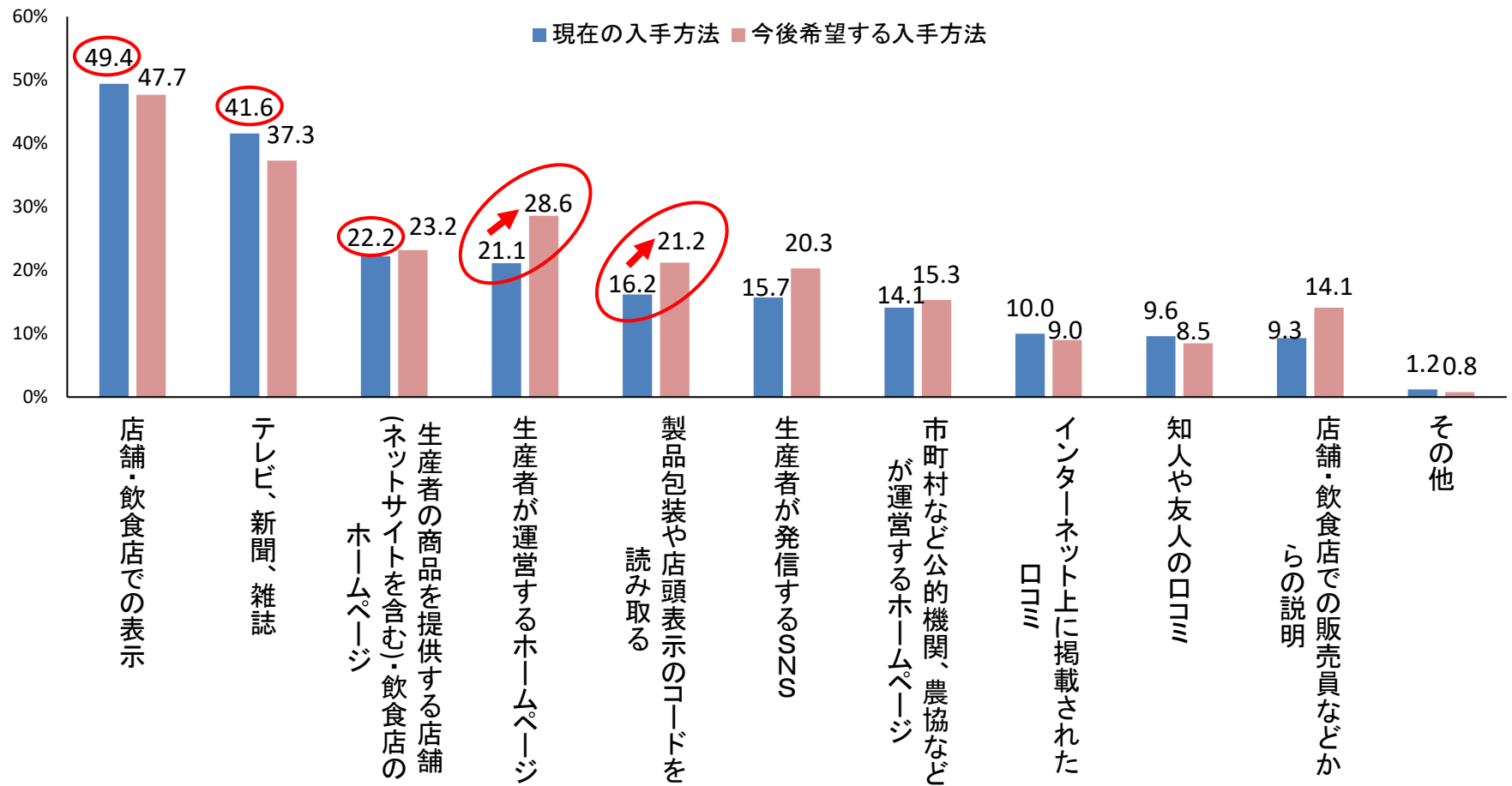
- ・農産物に関する情報のうち、「とても関心がある」、「やや関心がある」を合わせた“関心がある”とする回答は、「食味」(78.0%)が最も高く、次いで「保存方法」(72.7%)、「食べ方・調理法」(71.5%)の順となった。
- ・「とても関心がある」割合は、「食味」(28.8%)、「農薬の使用の有無」(25.3%)、「栄養成分と効能」(21.2%)、「食べ方・調理法」(20.9%)で2割を上回った。



Ⅲ. 生産者・生産物に関する情報の入手方法(現在の入手方法/今後希望する入手方法)

- ・生産者・生産物に関する情報の現在の入手方法は、「店舗・飲食店での表示」(49.4%)が最も高く、次いで「テレビ、新聞、雑誌」(41.6%)、「生産者の商品を提供する店舗(ネットサイトを含む)・飲食店のホームページ」(22.2%)の順となった。
- ・今後希望する入手方法は、「生産者が運営するホームページ」(28.6%)、「製品包装や店頭表示のコードを読み取る」(21.2%)が、現在の入手方法と比較してそれぞれ5ポイント以上高くなった。

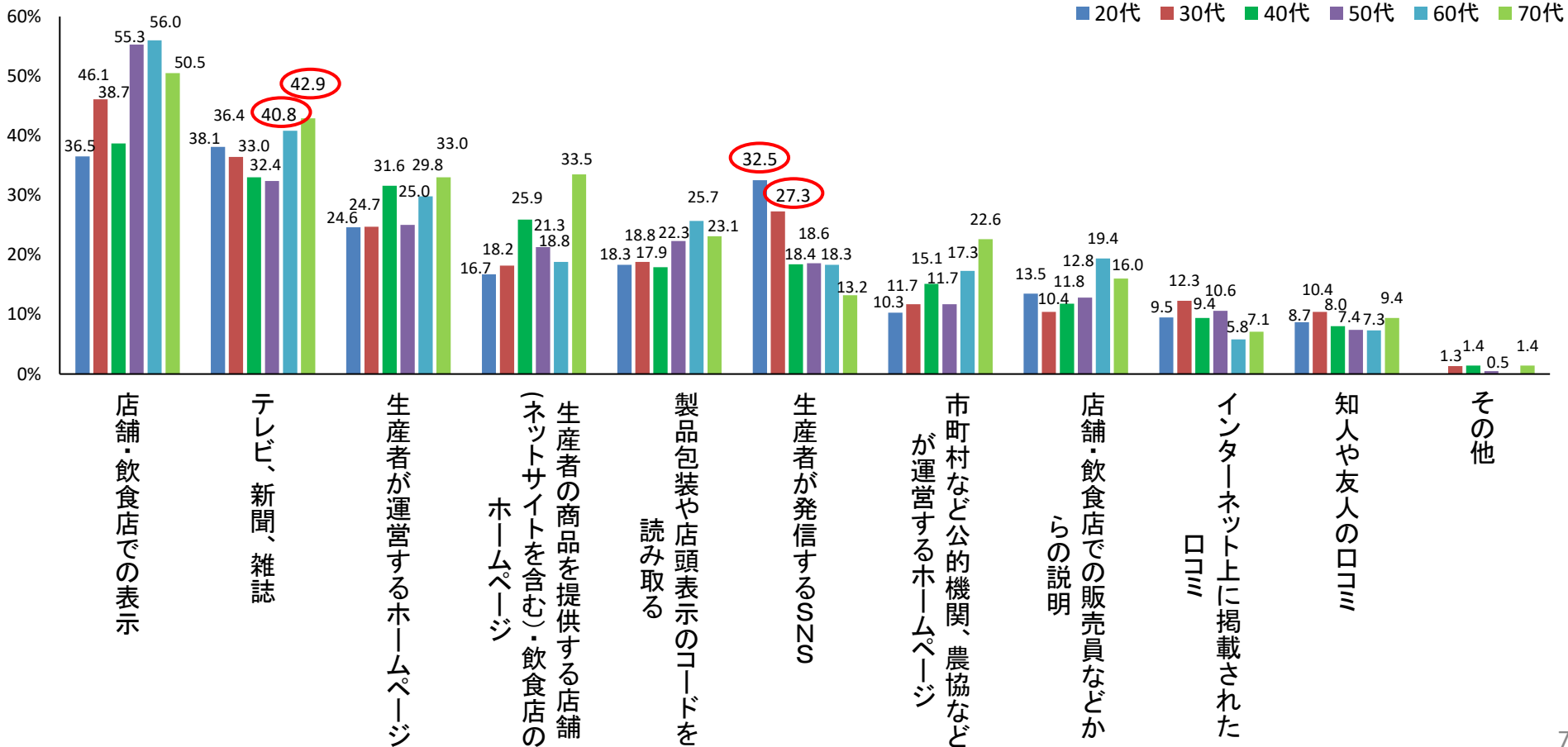
(複数回答、3つまで/生産者・生産物に関する情報に「とても関心がある」「やや関心がある」と回答した方)



Ⅲ. 生産者・生産物に関する情報の入手方法(今後希望する入手方法/年代別)

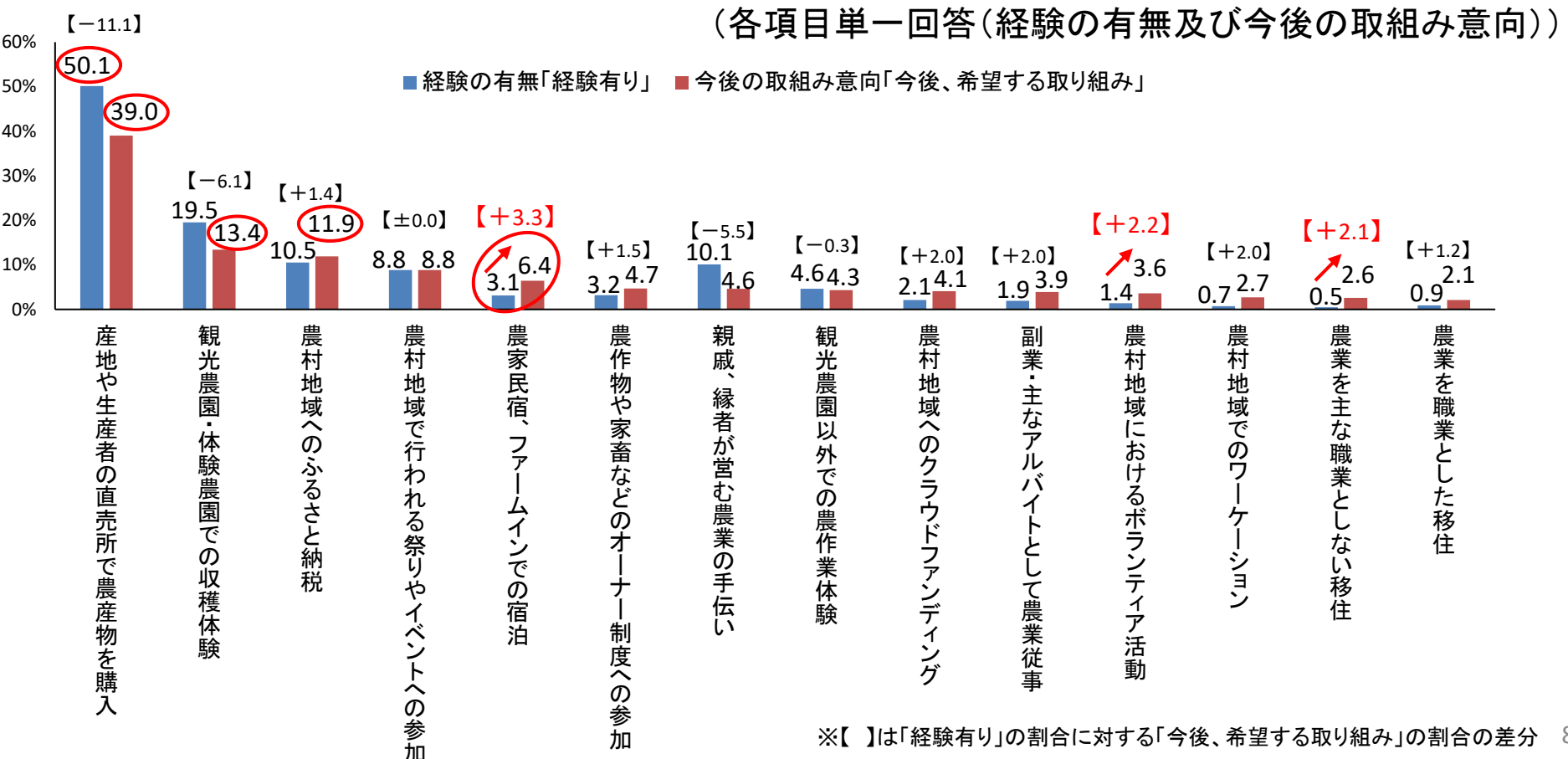
- ・今後希望する情報の入手方法について、年代別では、「生産者が発信するSNS」は、20代で3割、30代で2割を上回り、他の年代と比べて高い割合となった。
- ・「テレビ、新聞、雑誌」は、60～70代で4割を上回った。

(複数回答、3つまで/生産者・生産物に関する情報に「とても関心がある」「やや関心がある」と回答した方)



IV. 農村や農業生産者との関わりがある行動・取組みの経験、今後の取組み意向

- ・農村や農業生産者との関わりがある行動・取組みの経験について、「経験有り」の割合は「産地や生産者の直売所で農産物を購入」(50.1%)が最も高くなった。
- ・今後の取組み意向について、「今後、希望する取組み」の割合は「産地や生産者の直売所で農産物を購入」(39.0%)が最も高く、次いで「観光農園・体験農園での収穫体験」(13.4%)、「農村地域へのふるさと納税」(11.9%)の順となった。
- ・「今後、希望する取組み」割合について、「農家民宿、ファームインでの宿泊」(6.4%、「経験有り」比+3.3ポイント)、「農村地域におけるボランティア活動」(3.6%、同比+2.2ポイント)、「農業を主な職業としない移住」(2.6%、同比+2.1ポイント)は、「経験有り」の割合を上回った上位3つとなった。



IV. 農村や農業生産者との関わりがある行動・取組みの経験、今後の取組み意向(年代別)

・今後の取組み意向について、年代別では、全ての年代で「産地や生産者の直売所で農産物を購入」が最も高く、特に60～70代は、回答割合が約5割となり、他の年代と比べて高い割合となった。

(各項目単一回答(今後の取組み意向「今後、希望する取り組み」))

